

- ① まず初めに、白土の粘土をてぐすを使って
8等分に分けていきます。



- ② 次に、新聞紙を5等分にちぎります。



- ③ ちぎった新聞紙を、1つずつ丸めていき、
最後に全部を1つにまとめて
ボールのような形にしています。



- ④ 8等分に分けた白土の粘土の5つを
手で楕円に伸ばしていきます。



- ⑤ 楕円に伸ばした5つの粘土のうち
4つを、ボールの形にした新聞紙に
横につなげるように貼り付け、最後
の1つは、頭の部分になるように張
り付けていきます。

つなげた境目が分からないように
なるまで、指に少し水をつけてのば
していききました。



- ⑥ 体が出来たら、耳をつけていきます。
三角の形の耳を付けてもよし、V字の形の耳を付けてもよし。講師の作品見本を見ながら、受講生が自由に決めて作っていきました。赤土の粘土で作っている方もいました。



- ⑦ 目、鼻、翼、足を全体のバランスを考えながら作っていきます。
赤土と白土の粘土をうまく組み合わせながら、目等、貼り付ける部分に水を接着剤のようにつけてくっつけていきました。



- ⑧ 体や、翼などにひごなどで模様を付けたり、ストローで穴を開けたりしました。



- ⑨ 本体の中に明かりを灯す方は、講師に底をくりぬいてもらいました。



⑩ 形が出来上がりました。粘土が余った方は、フクロウを乗せる台を作ったりしました。

今回は、9つの作品が出来ましたが、同じ作品は一つもありませんでした。

ほとんどの方が初めての陶芸でしたが、手際のよい講師の指導により、時間内に作品を作ることができました。



⑪ 作品を約2週間乾燥させました。

そして窯に入れて焼き、作品に再会するのは約1か月半後の予定です。

どんな作品になって帰ってくるのかが楽しみです。



⑫ 待ちに待った作品が完成しました。

出来上がったふくろうたちが、皆さんに幸せを沢山呼んでくれますように！

